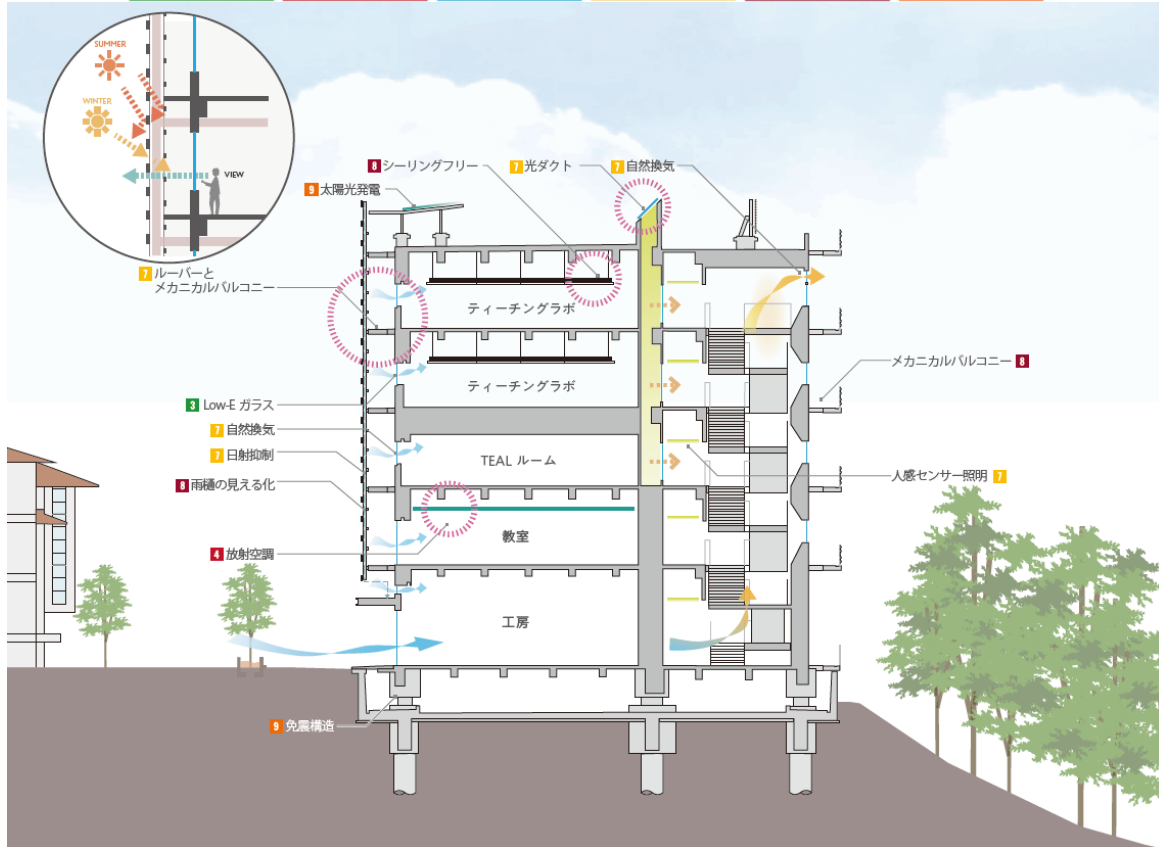
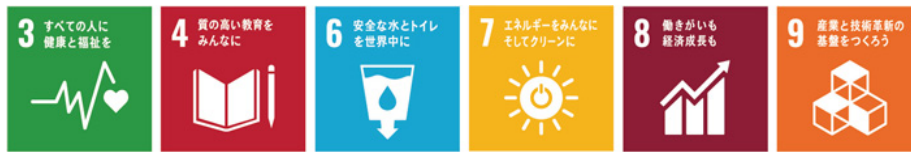


<フロア構成> 特徴的な施設の紹介

<p>1 階</p>	<p> 絵画工房 工作工房 Glass Blowing Workshop 陶芸工房 NEXTGen. Mobility Workshop </p>	<p>学生のものづくりの拠点となる各工房を設置。道路に面した側がガラス折戸になっており、作業風景を見ることができる構造です。</p> <p>Glass Blowing Workshopには、本格的なガラス制作に対応すべく、溶解炉を設置し、グローリーホールを4台設けています。室内温度環境に影響が出ないように、換気窓を設け、自然外気を取り入れながら、室内の排気が適切にできるように配慮をしています。</p> <p>NEXTGen. Mobility Workshopは、再生可能なエネルギーキャリアとその利用について等の研究や学修を行ないます。学修スペースで学んだ知識を、作業スペースにて実践し、ホイストクレーン等の機械を用いて、実際の次世代型車両の制作活動などを行ないます。</p>	 <p><Glass Blowing Workshop イメージ図></p>  <p><NEXTGen. Mobility Workshop イメージ図></p>
<p>2 階</p>	<p>教室</p>	<p>受講者の人数に対応できる大・中・小の6教室を設置しています。</p>	
<p>3 階</p>	<p> 学生ラウンジ/ TEAL ルーム/ 研究室 </p>	<p>TEAL ルーム (Technology Enabled Active Learning) は、上下可動式スタンディングデスクを設け、新たな学修環境を提供しています。座ったままの学修だけでなく、立ったまま利用することも可能なため、アクティブラーニングなど、様々な用途に応じた利用が可能です。また、3室あるうちの1室の壁面には黒板を設け、模擬授業などを行なえるようにしています。</p>	 <p><TEAL ルームイメージ図></p>
<p>4 階・ 5 階</p>	<p>実験室/ 理科教材実験室</p>	<p>実験室に対するニーズの変化に対応するために、従来の固定式の実験台でなくフレキシビリティを重視し、給水・電気・ガスの供給システムと空調・照明を一体化したユニット「シーリングフリー」を設けることで、可動式の実験台を実現。理系のアクティブラーニング等、さまざまな使い方をすることが可能です。</p>	<p>● 実験台レイアウトパターン ■ : 移動可能な什器(実験台) ■ : 移動が容易ではない什器(流し台)</p>  <p> 基本的な実験台レイアウト グループミーティングレイアウト 情報を共有するレイアウト </p>

<SDGs を意識した校舎環境整備>

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



<各 SDG の項目に合わせた施設整備の解説図>

【ガラス窓面の工夫】

建物のガラス窓面はLow-E ガラスの採用により断熱性能の向上を図っています。また、各窓面にはブラインドボックスを設け遮光性能の確保を行っています。

【光ダクト】

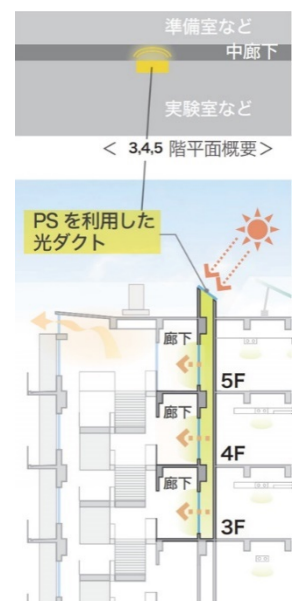
屋上にあるトップライトからダクトを通して自然光を取り込み、反射率の高い鏡面パネルを用いて廊下に自然光を導きます。周辺の照明は光ダクトの明るさと連動して点灯/ 消灯するため、省エネルギーに寄与しています。(右図参照)

【水資源の有効活用】

節水型衛生器具を採用することで水資源の有効活用を図っています。また、外構の雨水処理は雨水浸透枳、浸透側溝を設置し水の循環に配慮した計画としています。

【放射空調】

学修・生活環境向上を意識し、教室に快適性と省エネルギー性を両立した、放射空調システムを採用しました。



玉川大学「Consilience Hall 2020」の概要

主構造	鉄筋コンクリート造 地上 5 階建て
延べ床面積	6809.09 m ²